

体 育 科 学 習 指 導 案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和6年2月5日(月) 第3校時 熊野第四小学校体育館
- 2 学年 第2学年
- 3 単元名 「とびばこワールドをつくってあそぼう！」
B 器械・器具を使つての運動遊び エ 跳び箱を使った運動遊び

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説体育編第1・2学年「B 器械・器具を使つての運動遊び」「エ 跳び箱を使った運動遊び」を受けて設定した。跳び箱を使った運動遊びでは、その行い方を知るとともに、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りの動きを身に付けること(知識及び技能)や、器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること(思考力、判断力、表現力等)、運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること(学びに向かう力、人間性等)を育成することをねらっている。

(2) 教材観

本単元「とびばこワールドをつくってあそぼう！」では、身に付けた基本的な動きを、友達の良い動きや新しい遊び方を発見していく中で、さらに向上させていくことをねらいとしている。主な特徴は3点ある。

1点目は、1時間の基本的な学習の流れである。前半は基本的な動きを身に付けることを目指し、後半は、経験した動きから遊びを考えることを目指して構成する。基本的な動きのポイントを押さえた後、遊び方を工夫し、さらなる質的向上を目指す。

2点目は、個人学習になりがちな跳び箱運動において、みんなで遊び方を考える点である。跳び箱ごとにグループをつくり、友達の動きを見合ったり、アドバイスをしたり、かえるカードを使つて新しい遊び方を考えたりすることで、仲間と関わる楽しさや自分達で遊びをつくっていく楽しさを感じられるようにする。

3点目は、どの児童も進んで体を動かしたくなるような場の工夫である。跳び箱運動遊びとして、主に跳び乗り、跳び下り、またぎ乗り、またぎ下りができるコースをつくり、遊びの中で自然と基本的な動きが身に付くことを目標とする。また、準備運動では動物歩きなど感覚をつくる運動遊びを取り入れる。

また、本単元では、実態に応じて、ルールや場を変更していくこととする。

(3) 児童観

児童の実態については、アンケート等をもとに記入しています。

(4) 指導観（太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点）

指導にあたっては、まず毎時間の準備運動には、感覚をつくる運動遊びを取り入れる。動物歩きをしながらの鬼ごっこや二人組の馬跳び、マットや平均台を使った運動遊びなど簡易な遊びの中で、腕の支持から重心を前へ押し出していく感覚を身に付けていく。

跳び箱の基本的な運動遊びとして、主に跳び乗り、跳び下り、またぎ乗り・またぎ下りを段階的に指導する。感覚をつくる運動遊びとの繋がりに気付かせながら、「トン」「パッ」「ピタッ」などオノマトペを使って表現し、動きの感覚を捉えやすくできるようにする。

また、跳び箱運動の基本的な動きを身に付けるために、授業の前半は、友達の良い動きから、動きのポイントを全体で考える。後半は、グループごとに遊び方を工夫することで、楽しみながら動きを身に付けていく。そのときに、「かえるカード」の活用を促し、数や形、大きさなどを変えるヒントを提示する。

単元の後半の「どびばこワールド」では、4つのコースに分かれ、グループごとに活動する。跳び箱の横に立ち位置を決め、前の児童が次の児童の動きを見て良かった点を伝えたり、アドバイスしたりできるようにする。

5 単元の目標

知識及び技能	跳び箱遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをしたり、馬跳びやタイヤ跳びをしたりするなどして遊ぶことができる。
思考力、判断力、表現力等	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	跳び箱遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	・跳び箱遊びの行い方を言ったり書いたりしている。 ・跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りができる。 ・馬跳びやタイヤ跳びをして遊ぶことができる。
思考・判断・表現	・器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。 ・考えたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	・跳び箱遊びに進んで取り組もうとしている。 ・順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。 ・場や器械・器具の安全に気を付けている。

能四体育科単元モデル 第2学年 領域B 器械・器具を使った運動遊び エ 跳び箱を使った運動遊び

単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく問い）
跳び箱を使って、どんな運動遊びが考えられるだろう。

目指す児童の姿（ゴールイメージ）

8 本時の学習展開

(1) 本時の目標

- ・ 跳び箱ワールドを使って、簡単な遊び方を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりして、さらに良い動きを身に付けることができる。
- (思考力、判断力、表現力)

(2) 学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ☆児童の気付き RT・・・リフレクションタイム ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価 (☆) 【評価方法】
1 あいさつ、場の準備をする。 2 本時のめあてを確認する。	◇あらかじめ分担して、提示しておく。 ◇跳び箱の頭をおろす補助をする。	
とびばこワールドで、今までのあそびをレベルアップすることができる。		
3 準備運動をする。 4 今までの跳び箱遊びを組み合わせたローテーションでの学習をする。 ○踏み越し跳び ○平均台を使っての両足ジャンプ・両足着地 ○支持でのまたぎ乗り・またぎ下り ○支持で跳び乗り・跳び下り	◇よく使う部位（関節）をほぐす。 ◇感覚づくりの運動（馬跳びなど）をする。 ◇良い動きをしている児童をほめる。 ◇「かえるカード」を使って、身に付けた動きをさらに上手にしたり、工夫したりできるように声かけをする。 ◆まだ基本的な動きが身に付いていない児童は、自分の力に合った課題で取り組んで良いことを伝える。 ◇実際に各コーナーで児童が動き、良い動きにするための方法を考える。 ◆良い動きのポイントを掲示したり、確認したりする。	
【リフレクションタイム】 (全体での振り返り) 各コーナーでの確認	【RT の教師からの発問】 ・ どうして遠くに着地できるのかな？ ・ どうして着地がピタッと止まれるのかな？ ・ どうして、少ない回数でまたぎ乗りができるのかな？ ・ どんな工夫をしていたかな？ ☆児童の気付き ・ 片足で踏み切るときに、高くジャンプしている。 ・ 膝をグッと曲げている。 ・ 手を前に向けて、バランスをとっている。 ・ 両手をできるだけ前方についている。 ・ 手のひらに体重をのせて、跳び箱を押すようにしている。 ・ 二人組で、「せーの」と声を合わせている。	

5 自分の課題に合わせて学習をする。		
6 振り返りをする。 （個別での振り返り）	◇ワークシートにシールを貼り、意欲を高める。 ◇できるようになったことや友達の良い動きについて発表する。	☆遊び方を工夫したり、友達の良い動きを伝えたりして、さらによい動きを身に付けている。(思考・判断・表現) 【行動観察】 【ワークシート】 【発言】
7 場や用具を片付ける。	◇安全に気を付け、友達と協力して片付けをする。	
	◎グループごとに遊びの工夫を紹介して、次時はさらにレベルアップできるようにすることを伝える。	
	今日のポイント ①踏み越し跳びは、高くジャンプして、ピタッと着地する。 ②またぎ乗り・またぎ越しは、両手をできるだけ前方へついて、手のひらに体重をのせて、跳び箱を押すようにする。	
まとめ あそび方を工夫したり、友達のよい動きをつたえたりすると、跳び箱遊びが楽しくなる。		

視点1 効果的なリフレクションタイムであったか。(視点：手法、発達段階、場面設定)

○児童の動きを止めながら見せることで、ポイントが明確になり、児童にも意識付けすることができていた。

○またぎ下りのアドバイスがRTを経て、より具体的になっていた。

○児童に手本を見せる→考え、意見を言う→もう一度やらせる。【分かる⇔できる】

○ポイントを示すことで目的意識をもって取り組むようになった。

○楽しい→自分の課題を明確にもって場所を選んでいた。

●うまくいかない児童を見せて、みんなでどうやったらできるか考えさせても良かった。

視点2 教材や場の工夫は、児童が学習のねらいを達成することに有効であったか。

○跳び箱運動に繋がるように、場の設定をしていた。

(平均台の使い方、跳び箱の乗り下りなど)

○かえるカードが効果的だった。(数・大きさ・高さ・長さ・形をかえる)

○ワークシートに友達の良かったところを伝える工夫を加えている。

●遊び方の工夫が本時のゴールに繋がるようにした方が良かった。(目指す姿を教師がもっておく。)

●遊び方を例示しておく、教師が目指す姿へいきやすい。

●遊びを組み立てる中で、何を指導するのか、繋がりを意識して指導していく。

教頭先生より

○基礎・基本の定着(準備運動の仕方、安全面の配慮、児童同士の関わり合い)

→学級経営がしっかりとできている。

●児童にこの単元を通して目指す姿を明確にしていた方が良かった。

校長先生より

○授業の導入でポイントを示すことで、児童が何を意識して取り組むのか理解しやすかった。

→実際に運動させることで、児童1人1人に必要感のある課題をもたせることに繋がる。

●両足で踏切りをさせる→系統的な指導へ

